

国語科の段階、年間目標等の設定について

R5.4.25 研究部

1 確認事項（学習指導要領及び同解説を参考）

(1) 段階について

「知的障害をもつ児童生徒を対象とする各教科は、学年ではなく段階別で示している。この理由は発達期における知的機能の障害が同一学年であっても個人差が大きく、学力や学習状況も異なるためである。」

例えば、高等部2年生徒の国語の学習状況が小学部2段階である場合、その内容の中から生活年齢も考慮しながら実態に応じた目標を設定することになる。

(2) すでに当該学部の段階を達成している場合

小学部の児童のうち、小学部3段階に示す各教科の内容をすでに習得し目標を達成している場合は、小学校学習指導要領第2章に示す各教科の目標及び内容の一部を取り入れることができる。同様に、中学部2段階に示す各教科の内容を習得している中学部生徒の場合、中学校学習指導要領第2章に示す各教科の目標及び内容並びに小学校学習指導要領第2章に示す各教科の目標及び内容の一部を取り入れることができる。また、高等部2段階に示す各教科の内容を習得している高等部生徒の場合も同様に、高等学校学習指導要領第2章に示す各教科・科目、中学校学習指導要領第2章に示す各教科または小学校学習指導要領第2章に示す各教科の目標及び内容の一部を取り入れることができる。

2 段階、目標等の設定までの流れ（学部ごと）

(1) 学習状況の把握

- ① 評価者を定める。（前年度の国語担当者と現担任が検討することも可）
- ② 担当児童生徒一人一人の国語科の学習状況について、指導内容確認表（学習指導要領の内容を示す）を活用して◎、○、△等の記号（学習状況の達成レベルを示す）でチェックする。

記号	学習状況の達成レベル
◎	完全に達成しており、学習や生活の中で安定して関連する行動が観察される。
○	ほぼ達成されており、学習や生活の中で概ね関連する行動が観察される。
△	一部達成している、または支援を要する、環境の調整により行動が観察される。
▲	実態が分からない。
□	全く達成されていない。

(カ) 正しい姿勢で音読すること。◎

イ (7) 物事のはじめと終わりなど、情報と情報との関係について理解すること。▲

(1) 図書を用いた調べ方を理解し使うこと。▲

ウ (7) 昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむこと。◎

(1) 出来事や経験したことを伝え合う体験を通して、いろいろな語句や文の表現に触れること。○

(7) 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。

⑦ 目的に合った筆記用具を選び、書くこと。○

① 姿勢や筆記用具の持ち方を正しくし、平仮名や片仮名の文字の形に注意しながら丁寧に書くこと。△

(1) 読み聞かせなどに親しみ、いろいろな絵本や図鑑があることを知ること。○

指導内容確認表によるチェック例
(小学部3段階、知識・技能)

(2) 学習指導要領の内容理解

○や△、▲の記号が付けられた内容（段階）について、学習指導要領解説（各教科等編）及び該当する星（☆）本（知的障害者用著作教科書）の解説書等を読み、内容の理解を深める。

(3) 個別の指導計画における目標設定

今年度の担当児童生徒の課題を精選し（を入れる）、個別の指導計画の国語の年間目標を設定する。

★ 留意点

- ① 少しがんばれば習得できる内容（例えば上記の△や○の内容）に焦点化しながら、学習状況に沿って課題を設定する。
- ② 児童生徒の実態に応じて、今できている事柄について題材を変えたり、活動への取り組み方を変化させたりして取り組みの幅を広げることも大切にする。
- ③ 昨年度の年間指導計画を参考にして、①、②を含む内容にする。

例

児童生徒名	年間目標	国語科の段階、目標及び主な内容
KI	(例) 見聞きしたり、経験したりしたことについて、書きたい事柄を集め、伝えたい順序を考えて体験文を書く。	(例) 小3段階 (1)目標イ (2)内容 知・技ウ (イ) 思判表 B ア、イ
	(例) 易しい読み物を読み、登場人物の行動や場面の様子を想像したり、時間的な順序など内容の大体を捉えたりする。	(例) 小3段階 (1)目標ウ (2)内容 知・技イ (イ) 思判表 B ア、イ